

漁況予報 いわし

第155号

2009年9～10月漁期
(2009年9月14日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月が23トン、8月が115トン（速報値）で、いずれも好漁であった前年同期（7月：175トン、8月：436トン）を大きく下回りました。

魚体は、12～14cmのヒラゴ～小羽マイワシ（2009年級・0歳魚）が主体でしたが、8月中旬には三浦半島沿岸に短期的な中・大羽マイワシ（体長未測定）の入網もありました。

佐島地区のまき網は、8月下旬に鮮魚としての水揚げがありました。

近年の漁況経過から、今後の漁獲対象は0歳魚主体で推移するでしょう。紀伊半島以東における春季のマシラスの漁獲状況が低調であったことから、本県沿岸への0歳魚の来遊量は今後もあまり期待できないでしょう。

一方、大羽サイズに成長している1歳魚（2008年級）は豊度が高く、今後も本県沿岸への散発的な来遊が期待されます。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月が225トン、8月が24トン（速報値）で、いずれも不漁であった前年同期（7月：406トン、8月：65トン）をさらに下回りました。本県沿岸のカタクチイワシは例年、9月頃から徐々に漁獲が少なくなりますが、今年は前年同様、8月から早くも低調な漁模様となりました。

魚体は、7月は10～11cmの小型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、7、8月とも餌イワシとしての漁獲が継続しました。

近年の漁況経過から、今後は未成魚である0歳魚主体の漁獲となるでしょう。

【しらす】

相模湾のシラス船びき網によるシラス漁獲量（標本船データより推定）は、7月は好漁だった前年をやや下回ったもののほぼ平年並、8月は前年、平年をともに上回る漁獲となりました。5月中旬以降、不漁が継続していた相模湾東部の漁場は、7月中旬から漁が好転し、その後は良好な漁模様で経過しています。

一方、当センターが実施した卵稚仔プランクトン調査による、相模湾の7～8月のカタクチイワシ卵分布量は、平均78.8粒／曳網と前年（409.9粒／曳網）および平年（503.7粒／曳網）を大きく下回りました。

＝ 予報 ＝

【まいわし】

今漁期は、今年生まれの小・中羽マイワシが漁獲の主体となるでしょう。

3～6月のシラス漁におけるマシラス（マイワシの仔魚）の漁獲量から、今漁期の漁獲量は、定置網を主体に約200トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

【かたくちいわし】

今漁期は、未成魚が漁獲の主体となるでしょう。

7～8月の県内主要定置網による漁獲量から、今漁期の漁獲量は約40トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

【しらす】

今漁期は、7～8月に相模湾で生まれたカタクチシラス（カタクチイワシの仔魚）が漁獲の主体となります。

当センターが実施した7～8月の卵稚仔プランクトン調査結果によるカタクチイワシ卵分布量から、今漁期の漁獲量は約26トンと予測されます。

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

